令和４年度八代市医師会事業報告

令和４年度、新型コロナウイルス感染症は、第７波・第８波の流行の波が発生、特に第７波はこれまでの波を上回る規模で感染が拡大し、１０歳代・２０歳代を中心に多くの方が感染、その中でも高齢者や基礎疾患を有する方が亡くなられた。

八代管内での感染症拡大防止に向け、八代市医師会のリソースを集中して新型コロナウイルス感染症対策に取り組んだ。熊本県新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業を活用したＰＣＲ検査の検体採取が可能な八代市医師会地域外来・検査センター（ドライブスルー方式）と感染症検査機関等施設整備事業を活用した検体検査が可能なＬＡＭＰ法遺伝子検査システムの稼働、並びに八代市医師会健診検査センターでの酸素免疫化学発光法（ルミパルスＧ１２００）の抗原定量検査システムの稼働を実施した。これにより、かかりつけ医が新型コロナウイルス感染症の検査を必要と求めた場合に地域外来・検査センター（ドライブスルー方式）でのＰＣＲ検査（鼻咽頭拭い液・唾液）、並びに健診検査センターにおける抗原定量検査（鼻咽頭拭い液・唾液）の機能がワンストップで対応できる体制を更に充実させ、令和４年度における検体検査数は、７月の約３，０００検体をピークに年間では、約１５，０００検体に及んでいる。

高齢者施設等でのクラスター発生時の支援としては、高齢者施設ＣＯＶＩＤ－１９クラスター防止チームを編成し、八代保健所からの要請に基づき、電話診療（ラゲブリオや解熱剤等の処方を含む）、訪問診療（入所者の診察・入院調整・検体採取・スタッフへの助言など）を６月から１２月までの期間で２３件の高齢者施設等に対して支援を実施し、約２２０名の入所者やスタッフに対してラゲブリオ等の処方も実施した。

自宅療養者への支援としては、八代保健所からの要請に基づいた電話診療でラゲブリオ・発熱や咽頭痛・頭痛・咳嗽・下痢症状・吐き気など、約８０名の自宅療養者に対して、それぞれの症状に応じた処方も実施した。

宿泊療養施設療養者への支援としては、８名の医師にオンコール対応業務に従事していただき、ピーク時に約１３０名の療養者に対しての宿泊療養施設看護師からの２回／１日の情報提供を基にした健康観察や緊急時の受診・入院調整などの支援に努めた。

常に新型コロナウイルス感染症の感染状況などを八代保健所と情報共有、連携し、必要に応じて、熊本県健康福祉部医療政策課・健康危機管理課・健康づくり推進課などとも連携しつつ種々の取り組みの充実に努めた。

次に八代看護学校准看護師課程は、これまでの検討を踏まえ、新しいカリキュラム（定員８０名　４０名×１クラス×２学年）でスタートした。慢性的な入学者の減少傾向の対策として、教職員が一丸となり、各種イベントへ参加しての広報活動、Ｗｅｂまたは対面によるオープンスクール、八看マルシェなどを開催して入学者の減少傾向の対策に取り組んだ。

令和４年度、八代市医師会の大きな流れは以上であるが、以下は各事業部門の主たる事業について報告する。

《医師会事務局》

１）公衆衛生向上及び社会福祉増進を図る事業（地域保健・学校保健・母子保健・産業保健・福祉医療）　２）医道の高揚・医学医術の発展普及を図る事業　３）会員相互扶助事業の業務がある。学校保健では、小中学校における学校医手当て等の予算折衝や学校医の配置など、関係機関と緊密な連携を取りながら最新の情報収集、提供と迅速な対応に努めた。

また、熊本県の新型コロナウイルス感染症の感染対策の一環として、八代市医師会受診案内センター業務を受託し、発熱等の有症状者に対して、かかりつけ医の紹介や検査受診可能な診療・検査医療機関の紹介などの相談業務に従事した。

《看護学校》

地域において、医療・保健・福祉・介護のそれぞれの分野で専門性を活かした看護師及び准看護師養成の重要性を踏まえ、看護師国家試験並びに准看護師検定試験では１００％の合格率で常に県内トップクラスの位置を堅持し、何れの課程における卒業生の県内就職定着率もＡランク評価の調整率を得ている。

また、看護師２年課程・准看護師課程ともに受験者数が減少傾向にあり、担当理事を中心に種々の検討が重ねられ、地域イベントへ参加しての広報活動や新型コロナウイルス感染症の感染対策に配慮したＷｅｂによるオープンスクール開催、新しい試みとして、オープンスクールを兼ねた八看マルシェの開催にも取り組んだ。

《健診検査センター》

医師会共同利用施設として、地域・職域での各種健診やがん検診などの多岐にわたる業務を担い、疾病の予防と早期発見に努め、かかりつけ医等への受診勧奨を行い、また、八代地域唯一のラボとしての質の高い精度管理を基本に緊急及び２４時間対応の検体検査体制も充実し、健診業務並びに検査業務それぞれであらゆるニーズに迅速かつ的確に対応した。

特に、新型コロナウイルス感染症の感染対策におけるＰＣＲ検査・抗原定量検査の検体検査では、医療機関をはじめ、八代保健所からの行政検査や高齢者施設等など、多岐にわたる対応に真摯に取り組んだ。

《訪問看護ステーション》

地域包括ケアシステムの構築に向けた訪問看護ステーションの重要性と医療・保健・福祉・介護など、多職種のリーダー的存在としての体制整備が着実に進み、医療の立場からは特に医療依存度の高い症例に重点的に取り組んだ。

また、居宅介護支援事業所では、関係機関との緊密な連携と情報共有を行いながら、業務展開の拡大に取り組んだ。

《医師会立病院》

新型コロナウイルス感染症の院内クラスター発生の影響で、病床稼働率の低下が続いたが、それぞれのスタッフが専門性を活かし、協働して限られたマンパワーで入院患者並びにスタッフへの新たな感染拡大を防止しつつ、病床稼働率の改善に真摯に取り組み、療養型医療施設であるものの、医師会立病院としての使命感で５床の新型コロナウイルス感染患者受入れ病床の開設は、会員並びに地域住民のための医師会立病院の今後の在り方の大きな前進と考える。

また、地域在宅医療サポートセンター事業を活用した開業医からの軽症者等の入院受け入れ体制や在宅医療の推進についても体制整備が着実に進んでいる。

《夜間急患センター》

八代市の委託を受け、本会会員の尽力で地域住民の夜間急患センター利用が着実に定着している。特に小児医療については、小児科医会並びに内科協力医師による小児医療の充実は八代市医師会活動の大きな柱の１つである。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響による受診控えが依然としてある。夜間急患センターとしても感染予防対策を十分講じながら更なる診療体制を図らなければならない。